

# ナタネの地場搾油は燃料生産も促す

## 《研究のねらい》

過去10年間、地域活性化や地産地消をすすめることを目的として、地域内でナタネを栽培・搾油する市町村が増えています。このようなナタネ油の地産地消に対する社会的関心が高まっていますが、国産ナタネの実態、とくに搾油所の実態は調べられていませんでした。また、ナタネ栽培は燃料利用と結びつけて考えられることが多いですが、食用油の地場搾油と燃料利用の実態も明らかにされていません。そこで、国産搾油の全体像と地場搾油の実態、そして地場搾油と燃料生産の関係を調べました。

## 《地場搾油は小規模搾油の新しい姿》

国産ナタネの7割は全国販売する2社が搾油していますが、個人経営の小規模な搾油所も各地にあります。しかし、この小規模な搾油所は高齢化により減少しつつあります。一方、2003年以降新たに搾油所を設立してナタネ栽培・搾油に取り組む市町村が増加し、このような新しい搾油所の地場搾油は国産ナタネ油の5%、個人経営の小規模な搾油所の17%を占めている（2008年現在）ことがわかりました。そして、このような地産地消を目指す搾油所の多くはバイオディーゼル事業を兼営しています。

生産基盤研究領域

野中章久

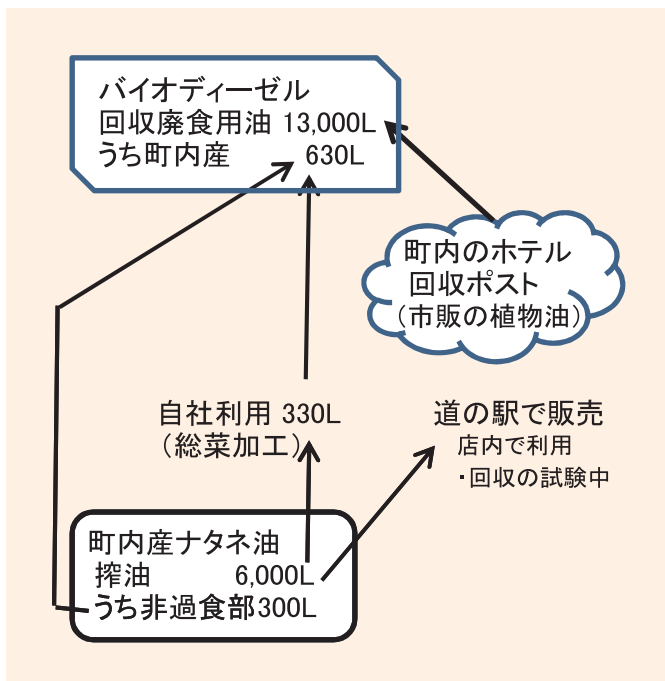
NONAKA, Akihisa



写真/搾油の様子

## 《食用油を作ることが燃料生産を促す》

地場ナタネの搾油所のバイオディーゼル事業は、地域の廃食用油を回収し、これを原料とすることで成り立ちます。地域の廃食用油はもともとは市販の油ですから、地場搾油とは関係しないように見えます。しかし、図に示した岩手県雫石町の例では、製造しているバイオディーゼルの5%は自分たちが搾った油に由来するものです。これは、搾油所が直売所で販売する総菜を調理した油と、搾油工程で廃棄される非可食部を燃料原料としたものです。この燃料に仕向けられる油は、彼らが製造するナタネ油の約1割に相当します。これらは廃棄物とするより燃料原料とした方が費用的にも環境的にも合理的です。このように、地域でナタネを栽培し、地域で搾るという活動は、食用油の地産地消を進めるだけでなく、燃料の地産地消を進める側面を持っていることがわかりました。



図/雫石町のナタネ搾油と燃料化